

## 2020年度第3四半期決算 電話会議 資料

2021年2月12日（金）

立ちどまらない保険。

**MS&AD**

INSURANCE GROUP

### 本日のポイント

#### 2020年度第3四半期 業績

##### <トップライン>

- ・正味収入保険料は△465億円、△1.7%の減収。
- ・国内損保2社は、自賠責のマイナスが大きいものの、火災保険や自動車保険の販売好調により0.6%の増収。海外保険子会社は、円高影響やMS Amlinの収支改善に向けた取組などにより△10.1%の減収。
- ・国内生保子会社のグロス収入保険料は、回復基調にあるものの△16.8%の減収。

##### <ボトムライン>

- ・四半期純利益は、通期純利益予想1,400億円に対し1,500億円（進捗率107.1%）。
- ・グループ修正利益は、ほぼ前年並みの2,012億円（進捗率95.8%）。

#### 新型コロナの影響

- ・新型コロナに起因するインカードロスは、海外での判決等を踏まえた見直しを行っているが、これによる変動は、11月に発表した通期の見通しに対し若干の増加で収まる見込み。

## 全体目次

### 2020年度第3四半期決算の概要

グループ連結	P5-12
国内損害保険会社	P13-15
国内生命保険会社	P16-17
海外保険子会社	P18
（参考）国内損害保険会社主要 2 社の業績概要	P19-21
（参考）MS Amlin 業績概要	P22
（参考）ESRの状況	P23

### <参考掲載> 2020年度業績予想（2020年11月19日発表）

グループ連結	P25-28
今回業績予想の主な前提	P29-30
国内損害保険会社	P31-32
国内生命保険会社	P33-34
海外保険子会社	P35
（参考）国内損保会社主要 2 社の概要	P36-37
（参考）MS Amlin 業績予想	P38

※決算データにつきましては、当社ホームページに掲載しています「国内損保決算データ集(Excelファイル)」も  
ご参照ください。

## 2020年度第3四半期決算の概要

損保子会社

(億円)

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比	増収率
元受正味保険料(除く収入積立保険料)	28,686	<b>28,553</b>	△ 132	△ 0.5%
正味収入保険料	27,253	<b>26,787</b>	△ 465	△ 1.7%
三井住友海上	11,535	<b>11,684</b>	148	1.3%
あいおいニッセイ同和損保	9,626	<b>9,603</b>	△ 22	△ 0.2%
三井ダイレクト損保	263	<b>265</b>	1	0.7%
海外保険子会社	5,819	<b>5,233</b>	△ 585	△ 10.1%

生保子会社

(億円)

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比	増収率
保険料(グロス収入保険料)*	10,646	<b>8,859</b>	△ 1,787	△ 16.8%
三井住友海上あいおい生命	3,828	<b>3,758</b>	△ 70	△ 1.8%
三井住友海上プライマリー生命	6,818	<b>5,101</b>	△ 1,716	△ 25.2%
生命保険料	7,837	<b>1,564</b>	△ 6,273	△ 80.0%

\* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

グループ連結(2020年度第3四半期)①業績の概要 1(トップライン)

(損保子会社[国内・海外])

- ・正味収入保険料は、国内損保子会社が増収となったものの海外保険子会社が減収となり、前年同期比△465億円、△1.7%の減収。
- ・国内損保主要2社の正味収入保険料は自賠責保険が減収となったものの、自動車保険や火災保険の増収により126億円、0.6%の増収。除く家計地震・自賠責ベースでは496億円、2.7%の増収。  
 火災保険は、2019年10月の料率改定効果や企業向けの火災保険の販売好調などから290億円の増収。  
 自動車保険は、2020年1月の料率改定効果を取り込んだことに加え、単価アップに向けた各種施策の効果により保険料単価が上昇したことを主因に215億円の増収。  
 自賠責保険は、料率改定の影響が大きかったことに加え、台数減少の影響もあり△369億円の減収。
- ・海外保険子会社の正味収入保険料は、円高影響やMS Amlinの収支改善に向けた取組などにより△585億円の減収。

(国内生保子会社)

- ・MSA生命:16ページを参照、MSP生命:17ページを参照

（億円）

	2019年度 第3四半期	2020年度		増減率
		第3四半期	前年同期比	
経常利益	2,647	<b>2,202</b>	△ 445	△ 16.8%
三井住友海上	1,682	<b>1,246</b>	△ 435	△ 25.9%
あいおいニッセイ同和損保	615	<b>426</b>	△ 189	△ 30.8%
三井ダイレクト損保	3	<b>26</b>	23	729.9%
三井住友海上あいおい生命	148	<b>209</b>	61	41.3%
三井住友海上プライマリー生命	171	<b>624</b>	452	263.9%
海外保険子会社	394	<b>10</b>	△ 383	△ 97.2%
その他・連結調整等	△ 368	<b>△ 342</b>	26	-
四半期純利益*	2,699	<b>1,500</b>	△ 1,198	△ 44.4%
三井住友海上	1,616	<b>835</b>	△ 780	△ 48.3%
あいおいニッセイ同和損保	455	<b>298</b>	△ 157	△ 34.5%
三井ダイレクト損保	2	<b>21</b>	19	895.2%
三井住友海上あいおい生命	69	<b>127</b>	57	82.9%
三井住友海上プライマリー生命	188	<b>359</b>	171	91.2%
海外保険子会社	300	<b>△ 90</b>	△ 390	△ 130.0%
その他・連結調整等	67	<b>△ 52</b>	△ 119	△ 177.6%

※連結の四半期純利益は、親会社株主に帰属する四半期純利益。子会社の四半期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

グループ連結（2020年度第3四半期）①業績の概要 2（ボトムライン）

<四半期純利益>

（グループ連結）

- ・四半期純利益1,500億円。  
なお、前期比△1,198億円のうち、(1)前期のMS海外事業再編に伴う影響（税後645億円）の反動などの特殊要因が△677億円（税後）、(2)異常危険準備金損益が△902億円（税後△650億円）。

（国内損保主要2社）

- ・四半期純利益は△937億円減益の1,133億円。特殊要因を除いたベースでは△366億円の減益。
- ・火災保険・新種保険のロスや事業費が増加したものの、国内の自然災害および自動車保険のロスの減少などにより、保険引受利益（異常危険準備金損益反映前）は585億円の増益。
- ・異常危険準備金損益の減少により、保険引受利益は△317億円の減益。
- ・資産運用・その他収支は、有価証券売却益や利配収入の減少などにより△308億円の減益。

（国内生保子会社）

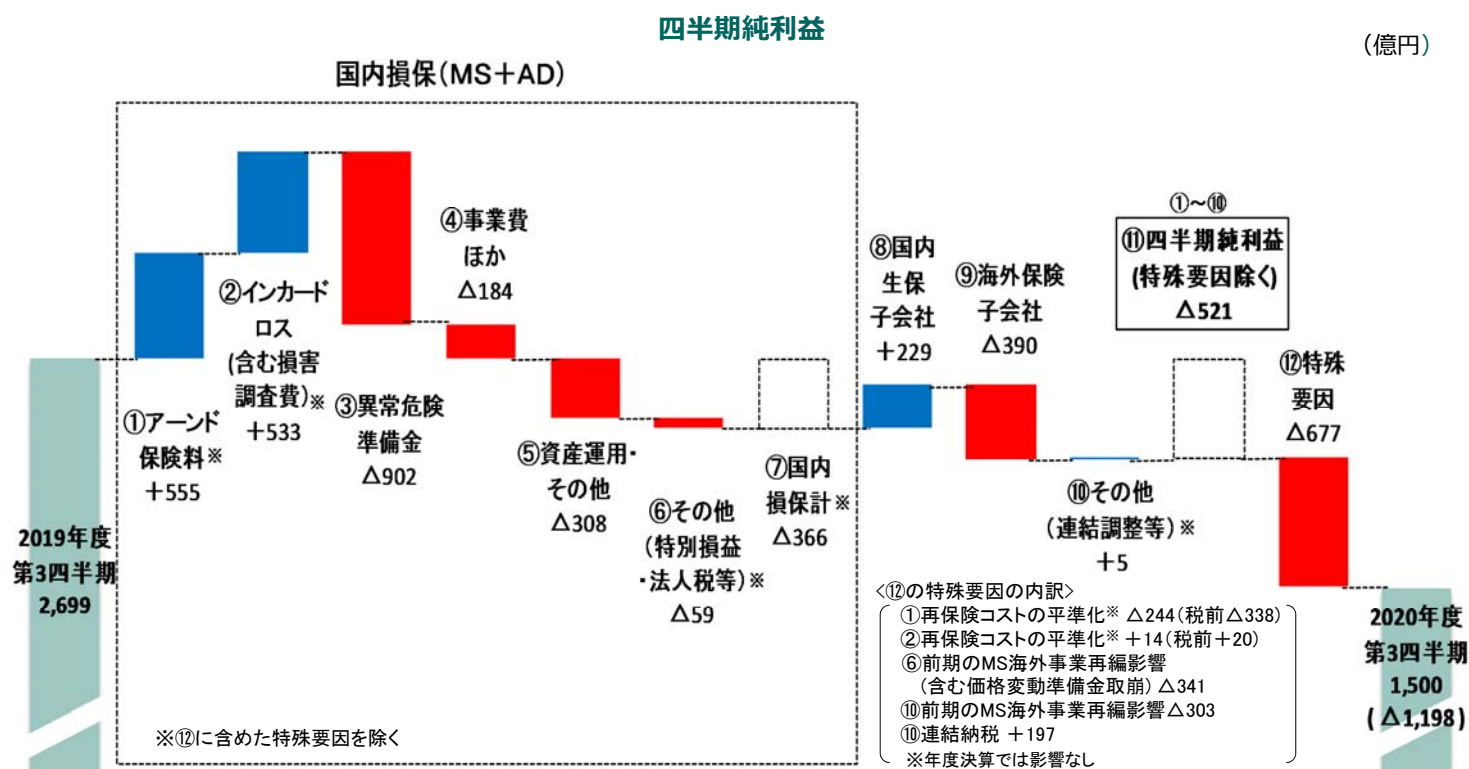
- ・MSA生命：16ページを参照、MSP生命：17ページを参照

（海外保険子会社）

- ・海外保険子会社：18ページを参照、MS Amlin：22ページを参照

## グループ連結（2020年度第3四半期）②前年同期との比較 1

- ・前期のMS海外事業再編影響などの特殊要因(△677億円)により四半期純利益は△1,198億円の減益。特殊要因を除くベースでは、⑨の海外保険子会社や⑦の国内損保2社の減益により△521億円の減益。
- ・⑦の国内損保2社は、③の異常危険準備金や⑤の資産運用・その他がマイナス要因となり△366億円の減益。



## グループ連結（2020年度第3四半期）②前年同期との比較 2

### 四半期純利益の内訳

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比
四半期純利益	2,699	1,500	△ 1,198
国内損保※ <sup>1</sup> 保険引受利益(除く家計地震・自賠責)	857	859	1
アーンド保険料	18,430	18,986	555
インカードロス(含む損害調査費)	△ 11,478	△ 10,945	533
異常危険準備金損益	328	△ 574	△ 902
事業費ほか※ <sup>2</sup>	△ 6,422	△ 6,606	△ 184
資産運用・その他	1,440	1,132	△ 308
その他(特別損益・法人税等)	△ 568	△ 627	△ 59
国内損保計	1,729	1,363	△ 366
国内生保子会社	257	486	229
海外保険子会社	300	△ 90	△ 390
その他(連結調整等)	△ 233	△ 227	5
四半期純利益(特殊要因除く)	2,054	1,532	△ 521
特殊要因	645	△ 32	△ 677

※<sup>1</sup> 国内損保は、三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の金額の合計

※<sup>2</sup> 「事業費ほか」には、為替損益などが含まれる

※<sup>3</sup> 特殊要因を除く

## グループ連結（2020年度第3四半期）③グループ修正利益

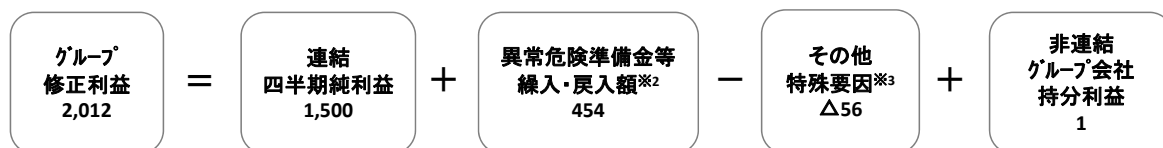
- ・新型コロナに起因するロスなどにより海外事業が減益となった一方、国内損保事業、国内生保事業が増益したことにより、グループ修正利益はほぼ前年同期並みの2,012億円。
- ・再保険コスト平準化影響（△229億円）を除くと250億円増益の2,242億円。

(億円)

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	
		前年同期比	
グループ修正利益 ※1	1,992	2,012	20
国内損保事業	1,230	1,527	296
国内生保事業	273	499	226
海外事業	442	△ 45	△ 487
金融サービス事業/リスク関連事業	46	31	△ 15

※1 「グループ修正利益」の定義は最終ページご参照。なお「グループ修正ROE」は年度末に開示。

(参考)



※2 繰入の場合は加算、戻入の場合は減算

※3 のれん償却等△165、特別損益(除く価格変動準備金)等109 [連結納税導入影響のうち194、関連会社株式の交換に伴う税負担△118]

## グループ連結（2020年度第3四半期）④当年度発生自然災害ロス、新型コロナの影響

- ・国内の自然災害ロスは△651億円減少の589億円。一方、海外の自然災害のロスは56億円増加の231億円。
- ・新型コロナに起因するインカードロスは490億円。

### 国内自然災害の影響

(億円)

	インカードロス		
	2019年度	2020年度	前年同期比
	第3四半期	第3四半期	
三井住友海上	683	360	△ 322
あいおいニッセイ同和損保	557	228	△ 329
合計	1,240	589	△ 651

### 海外自然災害の影響※

(億円)

	インカードロス		
	2019年度	2020年度	前年同期比
	第3四半期	第3四半期	
あいおいニッセイ同和損保	45	61	15
MS Amlin	129	170	40
合計	174	231	56

※ 上記2社の海外自然災害

### 新型コロナに起因するインカードロスの影響

(億円)

	インカードロス				
	MS	AD	海外保険子会社		MS Amlin
新型コロナに起因するインカードロス	490	37	54	399	383

MS：海外旅行保険、興行中止保険、利益保険(海外受再が中心)等

AD：本社再保険事業等

MS Amlin：利益保険、保証・信用保険、興行中止保険等(再保険を含む)

## 国内損害保険会社（2020年度第3四半期）①主要2社の業績概要 1

- ・国内自然災害ロスや自動車保険のロスの大幅な減少により、保険引受利益(異常危険準備金反映前)は585億円の増益。
- ・異常危険準備金損益の減少により、保険引受利益は△317億円の減益。

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	21,288	126	11,684	148	9,603	△ 22
アード保険料 <sup>※2</sup>	18,647	217	10,336	△ 2	8,311	219
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup> (－)	10,925	△ 553	6,054	△ 294	4,871	△ 258
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup> (－)	6,545	175	3,530	142	3,015	32
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	4,037	179	2,137	120	1,900	59
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	2,507	△ 3	1,392	22	1,115	△ 26
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,115	585	725	161	389	424
異常危険準備金損益	△ 574	△ 902	△ 270	△ 520	△ 304	△ 381
保険引受利益	540	△ 317	455	△ 359	85	42
保険引受利益(特殊要因除く)	859	1	678	△ 135	180	136
EI損害率 <sup>※2</sup>	58.6%	△ 3.7pt	58.6%	△ 2.8pt	58.6%	△ 4.8pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	58.9%	△ 4.7pt	59.5%	△ 5.0pt	58.2%	△ 4.3pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	33.5%	0.7pt	32.5%	0.9pt	34.7%	0.4pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	92.4%	△ 4.0pt	92.0%	△ 4.1pt	92.9%	△ 3.9pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2020年度第3四半期）①主要2社の業績概要 2

- ・資産運用・その他収支は、売却損益や利配収入の減少により△308億円の減少。

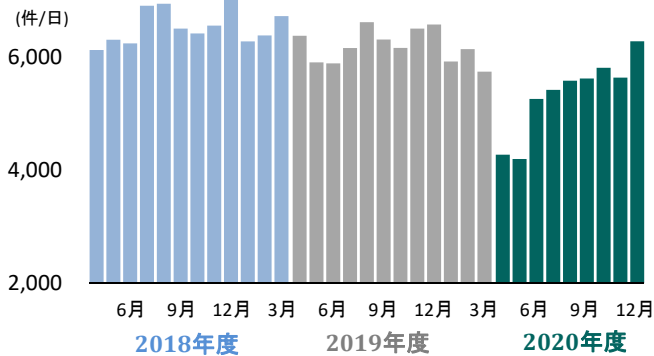
(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		前年同期比		前年同期比	(単体)	前年同期比
保険引受利益	540	△ 317	455	△ 359	85	42
ネット利息及び配当金収入	904	△ 65	585	△ 37	319	△ 28
有価証券売却損益	422	△ 269	303	△ 90	118	△ 178
有価証券評価損 (－)	40	△ 18	27	△ 11	13	△ 6
資産運用・その他収支	1,132	△ 308	791	△ 76	340	△ 231
経常利益	1,672	△ 625	1,246	△ 435	426	△ 189
特別損益	△ 94	1,056	△ 31	1,099	△ 63	△ 43
税引前四半期純利益	1,578	431	1,215	664	363	△ 232
法人税等	444	1,369	379	1,444	65	△ 75
四半期純利益	1,133	△ 937	835	△ 780	298	△ 157
	2社合計					
		前年同期比				
(参考)政策株式売却額	630	△ 254				

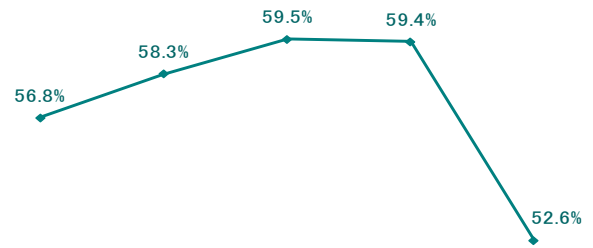
## 国内損害保険会社（2020年度第3四半期）②自動車保険の状況

- ・ 事故件数は、経済活動の停滞による交通量の減少を受け年度累計で前年同期比△14.1%の減少。
- ・ EI損害率は△6.8pt低下の52.6%。保険金単価は上昇傾向が続いているが、事故件数の減少が寄与。

事故件数の推移（国内、1日あたり、除自然災害）  
（MS・AD 2社単純合算ベース）



EI 損害率の推移（含む損害調査費）  
（MS・AD 2社単純合算ベース）



### 保険料・保険金

#### 三井住友海上

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+0.1%	+2.5%	+2.5%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+2.5%	+3.0%	

#### あいおいニッセイ同和損保

<国内・営業ベース>	契約台数	保険料単価	保険料
保険料増減要因	+1.0%	+2.8%	+3.7%
<国内>	対物	車両（除く自然災害）	
保険金単価増減	+5.1%	+1.3%	

※ 保険料増減要因の諸数値は営業成績ベース(4-12月)の前年同期比

※ 保険金単価の増減は、2020年3月末過去1年間の保険金単価に対する、2020年12月末過去1年間の保険金単価の増減を表示

※ EI損害率算出対象期間は、各年度の4-12月

## 国内生命保険会社 三井住友海上あいおい生命（2020年度第3四半期）業績概要

- ・ 新契約高は新型コロナの影響等を主因に△16%減少したものの、第2四半期（△22%）に比べ減少割合は縮小。
- ・ 四半期純利益は、責任準備金繰入負担の減少に加え、手数料の減少および経費の削減などにより57億円の増益。

### 三井住友海上あいおい生命

（億円）

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	15,492	13,051	△ 2,440	△ 15.8%
新契約年換算保険料	217	192	△ 25	△ 11.5%
うち 第三分野	147	108	△ 38	△ 26.3%
保有契約高（個人合計）	（期首） 244,580	243,189	（期首比） △ 1,390	△ 0.6%
保有契約年換算保険料	（期首） 4,481	4,474	（期首比） △ 6	△ 0.2%
うち 第三分野	（期首） 1,381	1,440	（期首比） 59	4.3%
保険料（グロス収入保険料）	3,828	3,758	△ 70	△ 1.8%
経常利益	148	209	61	41.3%
特別損益	△ 8	△ 8	0	△ 1.0%
四半期純利益	69	127	57	82.9%
基礎利益	127	192	64	50.5%



## 国内生命保険会社 三井住友海上プライマリー生命（2020年度第3四半期）業績概要

- ・グロス収入保険料は、新型コロナの影響等を主因に△25%減収の5,101億円。
- ・四半期純利益は、円安局面において契約者が設定した運用目標値に到達（ターゲットヒット）した契約の発生に伴う債券売却益や責任準備金繰入負担の減少に加え、代理店手数料負担の減少などにより171億円増益の359億円。

### 三井住友海上プライマリー生命

(億円)

	2019年度 第3四半期		2020年度 第3四半期	
			前年同期比	増減率
新契約高（個人合計）	6,894	<b>5,099</b>	△ 1,795	△ 26.0%
保有契約高（個人合計）	（期首） 65,140	<b>68,165</b>	（期首比） 3,024	4.6%
保険料（グロス収入保険料）	6,818	<b>5,101</b>	△ 1,716	△ 25.2%
経常利益	171	<b>624</b>	452	263.9%
特別損益	87	<b>△ 127</b>	△ 215	△ 244.9%
四半期純利益	188	<b>359</b>	171	91.2%

### 金利・為替影響

(億円)

金利影響	△ 11	<b>268</b>
為替影響	△ 104	<b>△ 169</b>
合計	△ 116	<b>99</b>

## 海外保険子会社（2020年度第3四半期）業績概要

- ・正味収入保険料は、為替影響(△146億円)やMS Amlinの収支改善に向けた取組などにより減収。
- ・四半期純利益は、欧州が新型コロナに起因するロスを主因に△355億円、海外生保が△107億円の減益となったことなどにより△390億円の減益。MS AmlinについてはP22を参照。

### 海外保険子会社

(億円)

	2019年度 第3四半期		2020年度 第3四半期	
			前年同期比	増減率
正味収入保険料	5,819	<b>5,233</b>	△ 585	△ 10.1%
アジア	1,362	<b>1,285</b>	△ 77	△ 5.7%
欧州	4,127	<b>3,645</b>	△ 481	△ 11.7%
米州	328	<b>302</b>	△ 25	△ 7.8%
四半期純利益	300	<b>△ 90</b>	△ 390	△ 130.0%
アジア	144	<b>205</b>	60	42.0%
欧州	62	<b>△ 292</b>	△ 355	△ 566.7%
米州	22	<b>33</b>	11	53.3%
海外生保	70	<b>△ 36</b>	△ 107	△ 152.0%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2020年度第3四半期) 主要2社の業績概要 1

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保	
		増収率		増収率	(単体)	増収率
火災	3,321	9.6%	1,763	17.2%	1,557	2.0%
海上	436	△16.1%	386	△16.6%	50	△11.9%
傷害	1,511	0.1%	1,069	△0.6%	442	1.8%
自動車	10,555	2.1%	5,107	2.0%	5,448	2.2%
自賠責	2,266	△14.0%	1,188	△15.0%	1,078	△12.9%
その他	3,196	2.3%	2,169	3.9%	1,027	△0.9%
合計	21,288	0.6%	11,684	1.3%	9,603	△0.2%
除く家計地震・自賠責	19,018	2.7%	10,494	3.5%	8,523	1.6%

## (ご参考) 国内損害保険会社 (2020年度第3四半期) 主要2社の業績概要 2

### EI損害率 (2社単純合算)

	EI損害率			EI損害率(除く自然災害影響)		
	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比
火災 (除く家計地震)	81.7%	<b>81.6%</b>	△0.1pt	49.9%	<b>63.4%</b>	13.5pt
海上	61.6%	<b>55.3%</b>	△6.3pt	59.5%	<b>55.2%</b>	△4.3pt
傷害	52.0%	<b>49.7%</b>	△2.3pt	52.0%	<b>49.7%</b>	△2.3pt
自動車	59.4%	<b>52.6%</b>	△6.8pt	58.4%	<b>52.3%</b>	△6.1pt
その他	57.9%	<b>60.9%</b>	3.0pt	55.5%	<b>60.1%</b>	4.6pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	62.3%	<b>58.6%</b>	△3.7pt	56.0%	<b>55.3%</b>	△0.7pt

※ インカードロス＝正味支払保険金＋損害調査費＋支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したものの

## (ご参考) 国内損害保険会社(2020年度第3四半期) 主要2社の業績概要 3

### EI損害率(三井住友海上(単体)、あいおいニッセイ同和損保(単体))

	EI損害率				EI損害率(除く自然災害影響)			
	三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保(単体)	
		前年同期比		前年同期比		前年同期比		前年同期比
火災 (除く家計地震)	79.5%	2.0pt	84.1%	Δ2.8pt	61.7%	11.1pt	65.4%	16.4pt
海上	53.4%	Δ8.4pt	69.7%	9.8pt	53.3%	Δ6.1pt	69.7%	9.8pt
傷害	48.8%	Δ3.0pt	51.9%	Δ0.5pt	48.8%	Δ3.0pt	51.9%	Δ0.5pt
自動車	53.5%	Δ5.6pt	51.9%	Δ7.7pt	53.1%	Δ5.2pt	51.6%	Δ6.9pt
その他	60.9%	2.2pt	60.9%	4.5pt	60.1%	3.5pt	60.1%	7.0pt
合計 (除く家計地震・自賠責)	58.6%	Δ2.8pt	58.6%	Δ4.8pt	55.4%	Δ0.6pt	55.1%	Δ0.8pt

※ インカドロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカドロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) MS Amlin 2020年度第3四半期(2020年1-9月期)業績概要※1

- ・ 第3四半期の純利益は、上期のコロナロス影響を主因にΔ209百万ポンド。
- ・ 一般保険リスクの改善は着実に進捗しており、コロナ影響を除く全体EIコンバインドレシオは98%となった(前年同期比4pt改善)。
- ・ 資産運用損益は、金融市場の回復を背景に、債券ファンドや株式を中心に90百万ポンドまで回復した。
- ・ 今期と前期のEI事業費率の差は、主に為替の影響によるもの。

(百万ポンド)

	2019年度 第3四半期	2020年度 第3四半期	前年同期比
正味収入保険料	2,746	2,407	Δ339
アード保険料	2,348	2,229	Δ120
インカドロス(含む損害調査費)	1,632	1,697	65
手数料・社費	805	765	Δ40
保険引受利益	Δ47	Δ235	Δ187
資産運用損益※2	235	90	Δ145
その他損益※3	Δ117	Δ68	49
四半期純利益	62	Δ209	Δ272
EI 損害率	69.5%	76.2%	6.7pt
EI 事業費率※4	32.5%	34.3%	1.8pt
EI コンバインド・レシオ※4	102.0%	110.5%	8.5pt

※1 現地管理ベース

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

※4 EI 事業費率およびEI コンバインド・レシオは、現地管理に合わせて保険引受利益に含まれる為替差損益を含めて算出。

コロナに起因するロス影響を除いた場合

(百万ポンド)

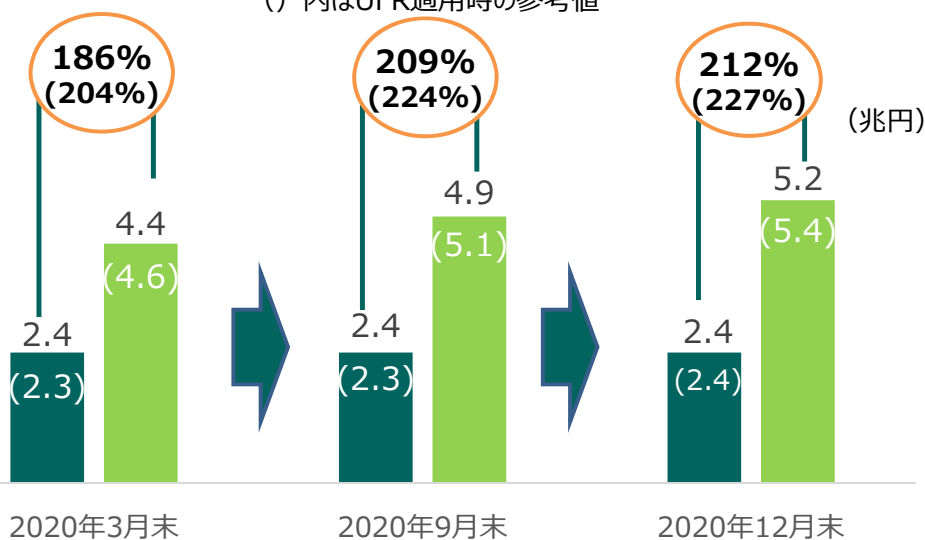
	2020年度 第3四半期	前年同期比
保険引受利益	39	86
EI 損害率	63.7%	Δ5.8pt
EI コンバインド・レシオ※4	98.0%	Δ4.0pt

## (ご参考) ESRの状況

### ESR<sup>(注1)</sup>

■ 統合リスク量<sup>(注2)</sup> ■ 時価純資産

( ) 内はUFR適用時の参考値



### <ESRの主な増減要因> (2020年3月末対比)

ESRは、主に以下のような要因により26pt上昇。

- ✓ 時価純資産は、利益による内部留保の増加や国内株価・国内金利の上昇等により増加。
- ✓ 統合リスク量は、国内株価の上昇および事業投資により増加したものの、政策株式の削減および超長期債の購入によるALMの推進等のリスク削減取組によりほぼ横ばい。

### <市場環境前提>

	2020年 3月末	2020年 12月末	対3月末比
日経平均株価	18,917円	27,444円	+8,527円
国債30年金利	0.43%	0.65%	+0.22pt
為替 (ドル円)	109円	104円	▲ 5円

(注1) ESR : エコミック・ソルベンシー・レシオ (= 時価純資産 ÷ 統合リスク量)

(注2) 統合リスク量 : 信頼水準99.5%のVaR (Value at Risk) でリスク量を計測。

## (参考)2020年度業績予想

以降は、2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表) の資料を  
参考までに掲載しております

## グループ連結（2020年度業績予想）①概要1（トップライン）

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

- ・ 損保子会社の正味収入保険料は、国内損保子会社で自動車保険や火災保険の販売が堅調に推移していることから、年初予想比+600億円。
- ・ 生保子会社のグロス収入保険料は、販売が回復してきたことから年初予想比+1,040億円。

### 損保子会社

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
正味収入保険料	35,737	34,000	<b>34,600</b>	△ 1,137	△ 3.2%	600
三井住友海上	15,479	15,020	<b>15,300</b>	△ 179	△ 1.2%	280
あいおいニッセイ同和損保	12,767	12,420	<b>12,700</b>	△ 67	△ 0.5%	280
三井ダイレクト損保	363	366	<b>365</b>	1	0.4%	△ 1
海外保険子会社	7,119	6,190	<b>6,230</b>	△ 889	△ 12.5%	40

### 生保子会社

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)			
			前期比	増収率	年初予想比	
保険料(グロス収入保険料)*	13,934	10,040	<b>11,080</b>	△ 2,854	△ 20.5%	1,040
三井住友海上あいおい生命	5,212	5,040	<b>5,080</b>	△ 132	△ 2.6%	40
三井住友海上プライマリー生命	8,721	5,000	<b>6,000</b>	△ 2,721	△ 31.2%	1,000
生命保険料	9,437	6,000	<b>4,400</b>	△ 5,037	△ 53.4%	△ 1,600

\* 保険料(グロス収入保険料)は国内生保子会社のみ

## グループ連結（2020年度業績予想）①概要2（ボトムライン）

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

- ・ 国内損保子会社と国内生保子会社の利益が年初予想を上回ることなどから、年初予想比+100億円の1,400億円。

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
経常利益	1,577	1,700	<b>2,000</b>	422	300
三井住友海上	891	1,140	<b>1,340</b>	448	200
あいおいニッセイ同和損保	586	260	<b>340</b>	△ 246	80
当期純利益*	1,430	1,300	<b>1,400</b>	△ 30	100
三井住友海上	940	760	<b>920</b>	△ 20	160
あいおいニッセイ同和損保	447	230	<b>230</b>	△ 217	-
三井ダイレクト損保	1	1	<b>3</b>	1	2
三井住友海上あいおい生命	75	80	<b>90</b>	14	10
三井住友海上プライマリー生命	203	150	<b>200</b>	△ 3	50
海外保険子会社	361	120	<b>30</b>	△ 331	△ 90
その他・連結調整等	△ 599	△ 41	<b>△ 73</b>	526	△ 32
ROE(財務会計ベース)	5.5%	5.1%	<b>5.3%</b>	△ 0.2pt	0.2pt

\* 連結の当期純利益は、親会社株主に帰属する当期純利益。子会社の当期純利益は出資持分ベース。以下同じ。

## グループ連結（2020年度業績予想）②年初予想との比較

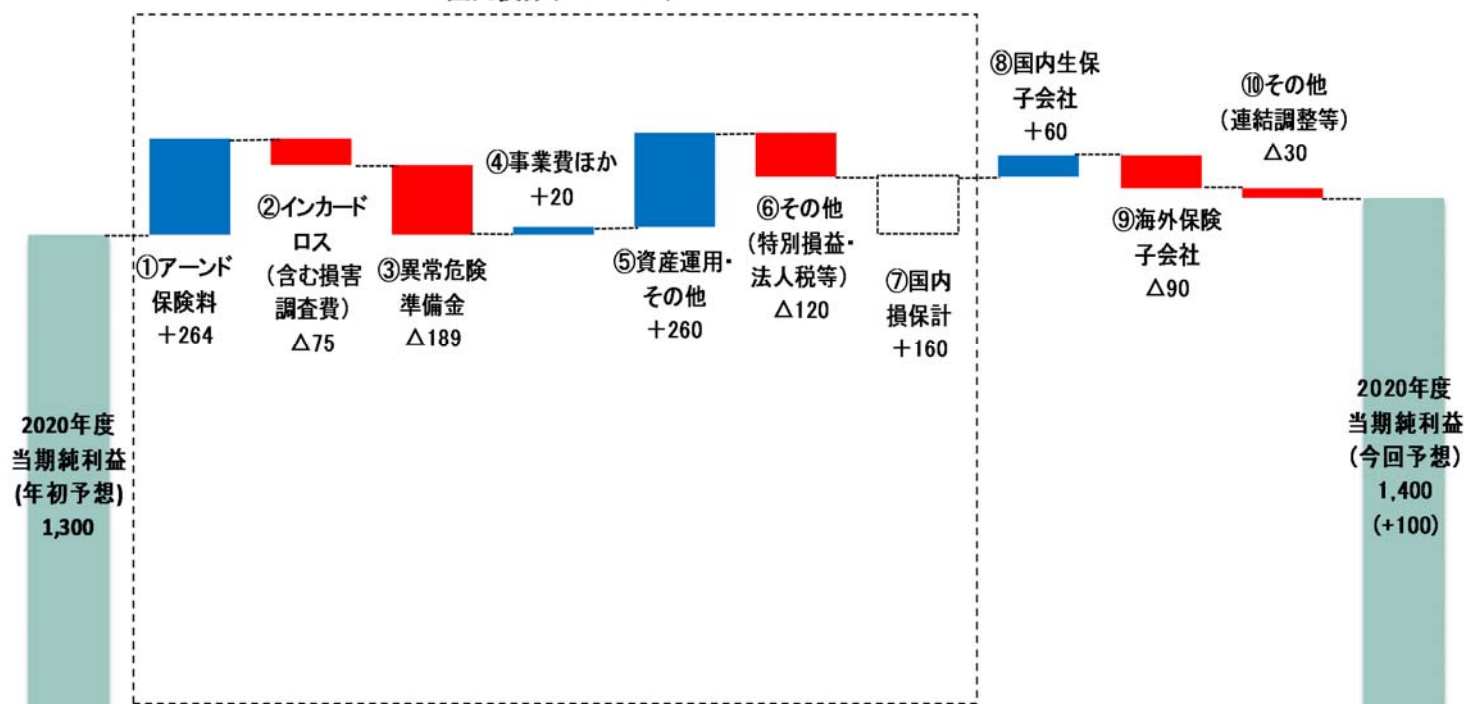
<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

- ①のアーンド保険料はトップラインが堅調に推移していることを主因に264億円のプラス要因。⑤の資産運用・その他は金融市場が回復基調にあることから260億円のプラス要因。

### 連結純利益の年初予想比増減要因

国内損保(MS+AD)

(億円)



## グループ連結（2020年度業績予想）③グループ修正利益

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

- グループ修正利益は、海外事業が年初予想を下回るものの、国内損保事業、国内生保事業が年初予想を上回ることから、年初予想比+300億円の2,100億円。

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度 (今回予想)		
			前期比	年初予想比	
グループ修正利益	2,331	1,800	<b>2,100</b>	△ 231	300
国内損保事業	1,195	1,300	<b>1,690</b>	494	390
国内生保事業	297	250	<b>310</b>	12	60
海外事業	494	200	<b>40</b>	△ 454	△ 160
金融サービス事業/リスク関連事業	48	50	<b>60</b>	11	10
その他 ※	296	-	-	△ 296	-
その他経営数値目標					
MSA生命 EEV	8,902	9,120	<b>9,220</b>	317	100
グループ修正ROE	8.0%	6.1%	<b>6.8%</b>	△ 1.2pt	0.7pt

※ MS海外事業再編影響のうちグループ修正利益算入額

		三井住友海上		あいおいニッセイ同和損保	
市場環境の前提		2020年9月末の水準を想定			
		参考(2020年9月末) 日経平均 23,185円、米ドル 106円、ユーロ 124円、英ポンド 136円			
国内自然災害		375億円	(+ 25億円)	225億円	(△ 25億円)
異常危険準備金 (火災保険)	繰入	199億円	(+ 8億円)	301億円	(+ 17億円)
	取崩	67億円	(+ 27億円)	254億円	(+ 30億円)
	積増	132億円	(△ 19億円)	47億円	(△ 13億円)
異常危険準備金 (自動車保険)	繰入	219億円	(+ 3億円)	231億円	(-)
	取崩	-	(△ 76億円)	53億円	(△ 111億円)
	積増	219億円	(+ 79億円)	178億円	(+ 111億円)
法定実効税率		27.9%			

※ 海外自然災害について、MS Amlinは185億円(△41億円)。あいおいニッセイ同和損保は115億円(-)。

※ ()内は年初予想比

今回業績予想の主な前提2 新型コロナの影響見通し

新型コロナに起因するインカードロス (2020年度予想)

(億円)

	MS		AD	海外保険子会社	
				MS Amlin	
新型コロナに起因するインカードロス	480	40	50	390	375

MS: 海外旅行保険、興行中止保険、利益保険(海外受再が中心)等  
AD: 本社再保険事業等  
MS Amlin: 右表のとおり

MS Amlinの内訳

(億円)

区分	年初予想	今回予想	年初予想比
元受利益保険(英国他)	35	85	50
その他(不確実性に備えた追加積立を含む)	145	290	145
合計	180	375	195

2020年度の影響見込額

- ・ 新型コロナウイルスによる収支影響が見込まれる項目として、海外の発生保険金の増加と国内の資産運用利益の減少を集計。
- ・ 年初との比較では、保険引受での発生保険金の増加を資産運用のマイナス影響減少でカバー。(影響見込額は減少)

(億円)

	年初予想	今回予想	年初予想比	年初予想比増減理由
発生保険金の増加	△200 (主に海外)	△390 (海外)	△190	英国利益保険の約款解釈に係る訴訟の判決等の状況を考慮し、再保険を含む利益保険のインカードロスを慎重に見積もったことや、不確実性に備えた追加的な支払備金の積立てを行ったことなど
資産運用利益の減少	△600 (国内外計)	△280 (国内)	+320	経済環境の回復
税後影響額合計	△640	△570	+70	

## 国内損害保険会社（2020年度業績予想）主要2社の概要 1

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
正味収入保険料 <sup>※1</sup>	28,000	△ 247	560	15,300	△ 179	280	12,700	△ 67	280
アード保険料 <sup>※2</sup>	24,738	456	264	13,647	219	144	11,091	237	120
インカードロス(含む損害調査費) <sup>※2</sup> (－)	14,591	△ 400	75	7,913	△ 388	68	6,678	△ 12	7
保険引受に係る事業費 <sup>※2</sup> (－)	8,785	195	△ 55	4,782	173	△ 43	4,003	21	△ 12
諸手数料及び集金費 <sup>※2</sup>	5,265	128	131	2,777	70	61	2,488	58	70
営業費及び一般管理費 <sup>※2</sup>	3,520	66	△ 187	2,005	103	△ 105	1,515	△ 36	△ 82
保険引受利益(異常危険準備金反映前)	1,287	869	209	957	661	94	330	207	115
異常危険準備金損益	△ 717	△ 383	△ 189	△ 467	△ 244	△ 84	△ 250	△ 139	△ 105
保険引受利益	570	485	20	490	416	10	80	68	10
EI損害率 <sup>※2</sup>	59.0%	△ 2.7pt	△ 0.3pt	58.0%	△ 3.8pt	△ 0.1pt	60.2%	△ 1.4pt	△ 0.6pt
正味損害率 <sup>※1</sup>	60.3%	△ 2.4pt	△ 1.5pt	59.5%	△ 3.8pt	△ 1.7pt	61.1%	△ 0.9pt	△ 1.5pt
正味事業費率 <sup>※1</sup>	34.2%	1.1pt	△ 0.9pt	33.5%	1.5pt	△ 1.0pt	35.0%	0.5pt	△ 0.7pt
コンバインド・レシオ <sup>※1</sup>	94.5%	△ 1.3pt	△ 2.4pt	93.0%	△ 2.3pt	△ 2.7pt	96.1%	△ 0.4pt	△ 2.2pt

※1 全種目ベース

※2 除く家計地震・自賠責ベース

※ アード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

## 国内損害保険会社（2020年度業績予想）主要2社の概要 2

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

(億円)

	2社合計(単純合計)			三井住友海上(単体)			あいおいニッセイ同和損保		
		前期比	年初 予想比		前期比	年初 予想比	(単体)	前期比	年初 予想比
保険引受利益	570	485	20	490	416	10	80	68	10
ネット利息及び配当金収入	998	△ 163	172	655	△ 63	136	343	△ 99	36
有価証券売却損益	528	△ 331	77	416	△ 122	4	112	△ 208	73
有価証券評価損 (－)	125	△ 193	△ 95	60	△ 148	△ 40	65	△ 45	△ 55
資産運用・その他収支	1,110	△ 282	260	850	32	190	260	△ 314	70
経常利益	1,680	202	280	1,340	448	200	340	△ 246	80
特別損益	△ 103	1,360	△ 96	△ 28	1,252	5	△ 75	107	△ 101
当期純利益	1,150	△ 238	160	920	△ 20	160	230	△ 217	-



## 主要項目

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高 <sup>※</sup>	20,684	16,151	<b>17,807</b>	△13.9%	1,655
新契約年換算保険料 <sup>※</sup>	293	241	<b>258</b>	△12.2%	17
保有契約高 <sup>※</sup>	244,580	241,332	<b>243,636</b>	△0.4%	2,304
保有契約年換算保険料 <sup>※</sup>	4,481	4,417	<b>4,456</b>	△0.6%	38
保険料(グロス収入保険料)	5,212	5,040	<b>5,080</b>	△132	40
経常利益	186	198	<b>213</b>	27	16
当期純利益	75	80	<b>90</b>	14	10

※新契約高、新契約年換算保険料、保有契約高、保有契約年換算保険料は、個人保険・個人年金保険の合計

## 主要項目

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)		
			増減率/前期比	年初予想比	
新契約高	8,827	5,285	<b>6,032</b>	△ 31.7%	746
保有契約高	65,140	62,900	<b>66,170</b>	1.6%	3,270
保険料(グロス収入保険料)	8,721	5,000	<b>6,000</b>	△ 2,721	1,000
経常利益	314	245	<b>416</b>	101	170
当期純利益	203	150	<b>200</b>	△ 3	50

- ・ 正味収入保険料は為替影響などにより年初予想より40億円の増収。
- ・ 当期純利益は年初予想比△90億円。欧州は発生保険金の増加等から年初予想比マイナス。一方、アジアは自動車損害率の改善等によりプラス。海外生保は持分法適用関連会社の損益が減少したことにより年初予想比△90億円。

## 海外保険子会社

(億円)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)		
			前期比	年初予想比	
正味収入保険料	7,119	6,190	<b>6,230</b>	△ 889	40
アジア	1,796	1,698	<b>1,673</b>	△ 123	△ 25
欧州	4,879	4,049	<b>4,162</b>	△ 718	113
米州	442	443	<b>395</b>	△ 47	△ 48
当期純利益	361	120	<b>30</b>	△ 331	△ 90
アジア	178	176	<b>227</b>	48	51
欧州	48	△ 166	<b>△ 206</b>	△ 254	△ 39
米州	29	37	<b>25</b>	△ 4	△ 12
海外生保	104	74	<b>△ 16</b>	△ 120	△ 90

## (ご参考) 国内損害保険会社（2020年度業績予想）主要2社の概要 1

＜参考＞ 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

### 正味収入保険料

(億円)

	2社合計(単純合計)		三井住友海上(単体)		あいおいニッセイ同和損保 (単体)	
		増収率		増収率		増収率
火災	<b>4,194</b>	3.5%	<b>2,213</b>	7.4%	<b>1,981</b>	△0.6%
海上	<b>551</b>	△20.3%	<b>484</b>	△21.8%	<b>67</b>	△7.8%
傷害	<b>2,028</b>	△0.4%	<b>1,446</b>	△1.5%	<b>582</b>	2.3%
自動車	<b>14,078</b>	1.8%	<b>6,835</b>	2.0%	<b>7,243</b>	1.6%
自賠責	<b>3,021</b>	△12.9%	<b>1,562</b>	△15.1%	<b>1,459</b>	△10.4%
その他	<b>4,128</b>	△0.9%	<b>2,760</b>	△1.1%	<b>1,368</b>	△0.4%
合計	<b>28,000</b>	△0.9%	<b>15,300</b>	△1.2%	<b>12,700</b>	△0.5%
除く家計地震・自賠責	<b>24,974</b>	0.8%	<b>13,735</b>	0.7%	<b>11,239</b>	0.9%

## EI損害率

	2社合計(単純合計)		三井住友海上 (単体)		あいおいニッセイ 同和損保(単体)	
		前期比		前期比		前期比
火災	73.6%	Δ4.8pt	70.3%	Δ6.7pt	77.4%	Δ2.4pt
海上	52.1%	Δ6.5pt	52.8%	Δ7.0pt	46.2%	Δ1.9pt
傷害	51.7%	Δ1.7pt	50.6%	Δ2.6pt	54.7%	0.8pt
自動車	56.3%	Δ2.5pt	56.7%	Δ2.7pt	56.0%	Δ2.2pt
その他	58.3%	Δ2.7pt	56.7%	Δ5.4pt	61.5%	2.6pt
合計(除く家計地震・自賠責)	59.0%	Δ2.7pt	58.0%	Δ3.8pt	60.2%	Δ1.4pt
(除く自然災害影響)	56.2%	Δ0.5pt	55.5%	Δ2.2pt	57.1%	1.7pt

※ インカードロス=正味支払保険金+損害調査費+支払備金積増額

※ EI損害率の分母となるアード(既経過)保険料は、未経過保険料(除く自然災害責任準備金)・保険料積立金等を調整して算出

※ 「自然災害影響」は、当年度発生国内自然災害および海外自然災害のインカードロスの合計から2018年度発生自然災害に係るキャットボンド回収額を控除したもの

## (ご参考) MS Amlin2020年度(2020年1-12月期)業績予想※1

<参考> 2020年度業績予想  
(2020.11.19 発表)

- ・当期純利益は、新型コロナに起因するインカードロスを慎重に見積もった影響などにより保険引受利益が減少するものの、資産運用損益の改善により一部相殺し、年初予想比Δ44百万ポンドのΔ149百万ポンド。
- ・一般リスクの改善は順調に進んでおり、コロナロスを除く保険引受利益は118百万ポンドと、前期比+173百万ポンドの改善。

(百万ポンド)

	2019年度	2020年度 (年初予想)	2020年度(今回予想)	
			前期比	年初予想比
正味収入保険料	3,220	2,755	2,715	Δ 505 Δ 40
アード保険料	3,169	2,874	2,912	Δ 257 38
インカードロス(含む損害調査費)	2,137	1,899	2,062	Δ 75 163
保険引受利益	Δ 55	Δ 37	Δ 152	Δ 97 Δ 115
資産運用損益※2	263	30	99	Δ 164 69
その他損益※3	Δ 147	Δ 104	Δ 100	47 4
当期純利益	55	Δ 105	Δ 149	Δ 204 Δ 44

## コロナに起因する引受ロス影響を除いた場合

(百万ポンド)

	2020年度(今回予想)	
	前期比	年初予想比
保険引受利益	118	173 20

※1 2019年度はMS Amlin plcにおける現地連結決算ベース。2020年度は、MS Amlin各社の業績予想の合算値。

※2 MS Amlinは有価証券の時価変動を損益に反映させる会計処理方法を採用

※3 保険事業会社以外で生じる経費等

この資料では、社名表示に次の略称を使用している箇所があります。

- ・ MS&ADホールディングス、持株会社 (＝MS&ADインシュアランス グループ ホールディングス(株))
- ・ MS&AD (＝MS&ADインシュアランス グループ)
- ・ 三井住友海上、MS (＝三井住友海上火災保険(株))
- ・ あいおいニッセイ同和損保、AD (＝あいおいニッセイ同和損害保険(株))
- ・ 三井ダイレクト損保、MD (＝三井ダイレクト損害保険(株))
- ・ 三井住友海上あいおい生命、MSA生命 (＝三井住友海上あいおい生命保険(株))
- ・ 三井住友海上プライマリー生命、MSP生命 (＝三井住友海上プライマリー生命保険(株))
- ・ MS Amlin (＝AUL、AAG、AISE、ACSを主とする各事業の合計)

AUL(＝MS Amlin Underwriting Limited)

AAG(＝MS Amlin AG)

AISE(＝MS Amlin Insurance SE)

ACS(＝MS Amlin Corporate Services Limited)

## 「グループ修正利益」の定義

グループ修正利益 = 連結当期利益 + 異常危険準備金等繰入・戻入額 - その他特殊要因 (のれん・その他無形固定資産償却額等) + 非連結グループ会社持分利益

修正純資産 = 連結純資産 + 異常危険準備金等 - のれん・その他無形固定資産

グループ修正ROE = グループ修正利益 ÷ 修正純資産 (期初・期末平均)

## 予想および見通しに関する注意事項

この資料に記載されている内容のうち、MS&ADホールディングスならびにグループ各社の将来に関する計画や戦略、業績に関する予想や見通しは、現時点で把握できる情報から得られた当社グループの判断に基づいています。実際の業績は、さまざまな要因によりこれらの業績見通しと異なる結果になり得ることをご承知おき下さいますようお願いいたします。実際の業績に影響を及ぼし得る要因としては、(1)事業を取り巻く経済動向、(2)保険業界における競争激化、(3)為替レートの変動、(4)税制など諸制度の変更、などがあります。

お問い合わせ先

MS&AD インシュアランス グループ ホールディングス株式会社  
広報・IR部

TEL: 03-5117-0311

URL: <https://www.ms-ad-hd.com/ja/ir/contact.html>